

山口幸三教授ご退職に寄せて

2022年3月をもって山口幸三教授が定年退職されることとなりました。山口教授の長年の功績を称え、『明星大学経営学研究紀要』第18号を「山口幸三教授退職記念号」として発刊いたします。

山口教授は1992年4月に明星大学情報学部経営情報学科助教授としてご着任され、2002年4月より同学部教授にご昇任されました。30年間にわたり、本学の教育及び研究活動にご尽力いただきました。2016年4月から2018年3月まで経営学部長にご就任され、2012年に経済学部より独立した経営学部の揺籃期の学部運営を担われました。今日、明星大学経営学部は偏差値も50を超えて、中堅大学の仲間入りを果たすことができましたが、その礎を築かれたのは山口学部長時代にあると考えております。

山口教授のご専門は会計学、とりわけ財務会計のご研究を一貫して取り組まれてまいりました。2014年度には、特別研究員としてイギリスにご留学されて研鑽を積まれました。巻末の「山口幸三教授研究業績一覧」にもございますように、多くのご著書および研究論文等を発表されています。会計教育におけるコンピュータの活用や電子商取引に関する研究論文を多くご執筆されてこられました。近年は、一貫して国際会計基準に関するご研究が続けられております。今号においても「COVID-19パンデミックと国際会計基準」と題する研究論文をご寄稿いただきました。学会においても、2014年から2016年にかけて、日本会計研究学会特別委員会「新しい地方公会計の理論、制度、および活用実践」のメンバーとしてご活動されました。

私は、2011年度に明星大学経済学部に着任し、山口教授とは11年間にわたりご一緒させていただき、山口教授の次の学部長を務めてまいりました。青梅キャンパスでのご勤務の経験があり、かつ経営学部の前身である情報学部時代を知る唯一の専任教員である山口教授には、学部運営にあたり多くのことを教えていただきました。物静かで、決して多くを語る先生ではございませんが、教授会での短いながらも的を得たご発言には、敬服したものであります。

このように、山口幸三教授は長年に渡り本学の教育、研究の発展に多大なご貢献をされてこられました。今後も経営学部のさらなる発展のために、ご指導、ご鞭撻を賜りたいと思っております。

2022年3月

経営学部長 若木 宏一